

宮城学院女子大学

MG発—コミュニケーション情報誌「パルティール」

Partir

VOL.10  
2010.10

「Partir (パルティール)」はフランス語で“出発する”  
—新しい時代に飛びたとうとする女性たちを支え、励ますために、  
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。



巻頭座談会

# 学芸員課程シンポジウム

シンポジウム実行委員会 × 宮城学院女子大学学長 吉崎泰博

シンポジウム実行委員会×宮城学院女子大学学長 吉崎泰博

# 学芸員課程シンポジウム

宮城学院女子大学では、毎年、学芸員課程の科目を学ぶ学生たちが主体となって博物館、美術館に関する講演会やシンポジウムを開催しています。

今回の座談会は、7月に「未来につなげるミュージアム」を開催しています。ミュージアムの可能性」と題したシンポジウムを終えたばかりの実行委員の皆さんにお話を伺いました。



吉崎学長(以下学長)皆さんは企画から広報や運営まで、自分たちで一からシンポジウムを作り上げたと聞いています。苦労したこと、大変だったことは？

**渡邊麻子さん(以下渡邊)** 今年の実行委員の人数が42人と、いつもの年の倍近い数でした。みんなの意見や情報が多く、実行委員長としてそれをまとめあげるのにはなかなか大変でした。

**馬場未知瑠さん(以下馬場)** 副委員長として委員長を補佐していましたが、最初のテーマ設定からそれぞれの役割を決めるまでが大変でした。

**佐藤瑞花さん(以下佐藤)** 私も副委員長でした。42人の意見を3人でまとめるのに苦労しました。

学長 みんな積極的に意見を出したんですね。テーマはどうやって決めたのですか？

**結城美里さん(以下結城)** 「ミュージアムと子ども」のほかに「交流」や「地



域」という意見もありました。最後は子どもを通じた交流、子どもと地域というつながりもあるということでもまとまりました。

**河東春菜さん(以下河東)** 私は広報のメディア担当でした。テレビ、ラジオの短い放送時間の中で、シンポジウムの良さを伝えるための台本を書くのが難しかったです。

**庄司悠理枝さん(以下庄司)** ポスターの作成を担当しましたがギリギリまで図案が決まらなかった。情報の共有ができず、動き始めが遅かったことが反省点です。

**結城** 学生発表を担当しました。県内だけでなく他県のミュージアムにもアンケートを送りましたが、依頼文や設問の作成、まとめなご形にするのに苦労しました。

学長 それぞれの役割でいろいろな経験しましたね。アンケートというのはその質問の仕方を知りたい答えを引き出せるか、でも誘導しづらいけない。本当に難しいですよ。







**女子大での経験を生かして**

学長 ところで、全国的に女子大が共学化していますが、宮城学院はこれからもずっと女子大のままで行こうと思ってるんです。というのも、何か大きな仕事をするとき、わが国では男女の間で女性が男性にリーダーを譲ってしまう傾向があるからです。

アメリカの調査で女子大卒と共学卒の女性では、社会でリーダーとして活躍しているのは女子大の方が圧倒的に多い。女性同士誰かがリーダーにならなければならぬのでリーダーシップが鍛えられるんですね。皆さんはいろいろな場面でリーダーを経験して



学長 シンポジウムを終えての感想は？

**渡邊** リーサルがあまりスムーズにいかず不安でしたが、当日は、講師の方や先生方などのご協力もあってスムーズだったと思います。委員長として自分がかかりしなきやという重さがあったのですが、みんなにも支えてもらいました。改めてありがとうございます。

**河東** 学生発表も担当したのですが、アンケートの返事が一週間前に来て、まとめるのに大変でした。何とか形にしたという感じ。

**馬場** 司会者の台本を考えましたが直前までまとまらず、大変でした。最終的にはうまくいったと思います。



**PROFILE**

宮城学院女子大学学長  
吉崎 泰博  
九州大学文学部卒業。  
2002年北九州市立大学  
学長、2005年4月より  
本学学長。

**座談会メンバー**

**渡邊 麻子**さん  
人間文化学科3年  
郡山高校出身

**佐藤 瑞花**さん  
人間文化学科3年  
古川黎明高校出身

**馬場 未知瑠**さん  
日本文学科3年  
泉松陵高校出身

**結城 美里**さん  
人間文化学科3年  
古川黎明高校出身

**河東 春菜**さん  
人間文化学科3年  
泉松陵高校出身

**庄司 悠理枝**さん  
人間文化学科3年  
名取北高校出身



いろいろな活動をして体験したことを総合的に自分のものにしていく。学生時代の経験は、社会に出てから必ず生きてくると思っていますよ。

最後に皆さんは、10年後に「こういう女性になりたい」という理想像はありますか？

**結城** 実行委員での経験からは自分の意見をしっかりと持つことと、他人の意見とのバランスを保つことが大事だと学びました。自分で考えて自分で行動する人になりたいです。

**河東** 大学で得た知識を生かした仕事をしたいと思います。

**庄司** 仕事のキャリアは積みたいと思いますが、自分のためになること、人生を豊かにするための勉強は続けていきたいです。

学長 常に人生の中でその気持ちを持ち続けることが大事ですね。教わった知識をすぐに生かすことができなくても、学生生活のいろいろな活動をして体験したことを総合的に自分のものにしていく。学生時代の経験は、社会に出てから必ず生きてくると思っていますよ。

**学芸員課程シンポジウム  
実行委員会について**

宮城学院女子大学では、毎年学芸員課程の科目を受講する学生\*の中で、博物館などの館務実習を控えた3年生の学生がシンポジウム実行委員になり、講演やシンポジウムを開催します。

これは、イベントの企画や外部への交渉、当日の運営などを学生が主体となって体験することにより、幅広い学芸員の仕事の理解につながる。キャリア教育の環として行われているものです。

実行委員会は、委員長、副委員長、書記、広報（ポスター作成、メディア、学内広報）、アンケートや活動報告などの資料作成に分かれ、今年度の委員会は2009年12月から準備を進めてきました。

今年は「ミュージアムと子ども」をテーマに設定し、ミュージアムの教育普及活動について取り上げました。7月10日（土）に行われたシンポジウムでは、「未来につなげるミュージアム〜次世代教育におけるミュージアムの可能性〜」と題し、第1部は講師に仙台市八木山動物園の獣医師石井里恵さん、仙台市科学館の主任指導主事数本芳行さんを迎えての講演会、第2部は学生による発表を行いました。会場となった本学講義館には学生を中心に150人ほどの参加者が集まり、真剣に耳を傾けていました。

\*学芸員課程の科目を受講できる学科は日本文学科、人間文化学科、音楽科(文化系のみ)、生活文化デザイン学科、国際文化学科です。

**結城** 当日司会を担当しました。緊張して失礼もあったかと…。でもアドリブを入れたりしてがんばりました。

**佐藤** 最後はみんなが納得いく形で終わっただと思います。

学長 特に学んだことはありますか？

**結城** 自分のすべきことをしながら全体を見るということ。そうじゃないと成功しないんだと思いました。

**庄司** ポスターは担当の5人が一人ひとり描いて投票制にするつもりだったのですが、みんなのいいところを取り入れてひとつの作品にしました。責任と作業はみんなで分けなないと意味がないと感じました。

学長 感動したことは？

**渡邊** 打ち上げで先生に良かったよといわれた途端に泣いてしまって、みんなに伝染しました(笑)。そういうわけて初めてやって良かったと思ったんです。

**学芸員課程で学ぶこと**

学長 皆さんはこれから博物館などでの館務実習を控えていますね。やはり学芸員になりたいという思いがありますか？

**渡邊** 学芸員課程には資格だけが欲しいという人もいますが、私は学芸員になりたいくて宮城学院に入学しました。人間文化学科には学芸員だった先生もいて、美術や歴史関係にも力を入れているし、県外などの博物館で実習できると聞いていたので。

**馬場** 私も学芸員をめざしています。小さいころはよく仙台市科学館に通いました。日本

学長 皆さんはこれから博物館などでの館務実習を控えていますね。やはり学芸員になりたいという思いがありますか？

**渡邊** 学芸員課程には資格だけが欲しいという人もいますが、私は学芸員になりたいくて宮城学院に入学しました。人間文化学科には学芸員だった先生もいて、美術や歴史関係にも力を入れているし、県外などの博物館で実習できると聞いていたので。

**馬場** 私も学芸員をめざしています。小さいころはよく仙台市科学館に通いました。日本





# 思索の森林の案内人たち

「学問ある」といふことは、新しい知識の世界を開く喜びに満ちています。学びごとは、きつこくからの人生に輝きを与えてくれるはず——。そんな世界を案内してくれる先生方に、「学びの姿勢」についてお話を伺いました。

## 複雑で多様な実践を読み解くために

実践の現場に身を置き、生の声から考察する専門は、幼児教育のカリキュラム論です。特に幼児が主体的に活動できる環境づくりを、建築家や遊具メーカーそして現場で幼児教育を実践している先生方と協同で研究しています。

教育の本質を探るなら、まず「実践の場に身をおいてみる」と考えています。研究の方法として「貫して大事にしているのは、実際に現場に足を運んで、現場で今起こっていることを見て聞いて体験すること。幼児期の子どもにとって、環境を含め、今起こることすべてが教育材料なんです。幼児の会話やつづき、先生の声かけ

など、そこに身を置いたからこそ知ることができる生の声をデータに複雑で多様な実践を再考し、理論を構築しています。そうした理論を基に作成されたカリキュラムは、現場にいるからこそ感じる疑問や矛盾にどうアプローチするかという実践の具体であり、そこに今日の教育の課題や、明日の方向性を探る上でも重要な資料があると考えています。

### 学びは問いから始まる

私は面白い教育実践をしている現場があると聞けば、国内外を問わず、調査に出かけています。日本にも各地に、歴史文化や地域に根付いたユニークな教育を実践しているところがたくさんあるんですね。私のゼミでは、現場の体験をもとに論文を書くことを基本にしているので、そうした現場にゼミ生はもちろん、保育人者となって現場で働いている卒業生もできるだけ一緒に足を運んでいます。

いろいろな現場を体験するのは、多様な価値

観に出会い、いつあるべきというこれまでの自分にとつての当たり前をリセットするチャンス。学生たちには、教えられたことや、現場に身を置いて実際に見聞きたことなど、あらゆることに「なぜそうなのか、そうするのか」という疑問を持って欲しいと思っています。学校教育の中で、学生たちは「答えを出す」ことを求め続けられてきたわけですが、問いを持ち、自分の考えを確認することこそが学びだと思っています。

### 他者との関係をどう築くか

教育は、最終的には「人とどう向き合うか」ということ。教師は、人間のわずらわしい部分も全部含めて、人とかわっていく仕事。人間関係の土台となるのは、お互いが傷つけないよう、相手に合わせるようやさしさではありませぬ。表面的な「会話」ではなく、相手と向き合う「対話」を通して、信頼関係を築いていく。日々の大学生活の中でも、そんなふうに人と向き合う大切さを意識して欲しいと思っています。



## 幼児教育学

児童教育学科  
磯部 裕子 教授

## 脳内の言葉の仕組みへのアプローチ

### 人間の持つ言語能力を解明

言語は人間だけが持っているのか。また人間の言葉はいつごろ、どのような形で誕生したのか。大人も子どもと同じように言語を使用できるのはなぜか。言語の研究はいろいろな謎に取り組んでいますが、私のテーマは、人間がいかに言語を理解しているかという脳の仕組みを生成文法のアプローチを使って解明しようというものです。

生成文法というのは、文字の表面に現れない言語の内部構造、おおざっぱに言えば単語と単語の結びつきのパターンに注目して研究していくんです。

いくつか簡単な例を挙げるとAmerican history teacherという語句には、アメリカ人の歴史の先生という意味とアメリカ史の先生という意味の2つの解釈があります。つまり、人は、[American(history teacher)]と、

[(American history) teacher]と生成の構造(語と語の結びつき)の可能性があることをちゃんと理解しているわけです。

以前は、英文法の参考書に書かれているようなルールが、脳の中にインプットされていると思われていた時期もありましたが、どうも不自然です。現在は、人の脳は単に2つの語を結びつけるというシンプルな仕組みを組み合わせ、発展させることで複雑な文章を生み出していると考えられているのです。

### 関心が発見を呼び、可能性を広げる

私が生成文法に出会ったのは大学時代でした。言葉を生み出すルールが分かれば理論的にはどんな言語も話せると思えたのが研究に進むきっかけだったと思います。言葉は時代とともに変わっていくけれど、基本的なルールは変わらない。人間の言語能力(普遍文法)を研究する

とにはそういう面白さがありました。

英語の勉強という単語や文法を暗記したと思いますがそれは受験のためであって、勉強として面白いものではないでしょう。大学時代は、じつくり落ちて勉強できる面白い時期なんです。ものを考えるところはそういうことが、自分は何を知りたいのか、どうすれば答えに辿り着けるのかを経験して欲しい。

知識や考える力は人間が持っている財産。大学の授業のように、一見自分と関係ないと思うことでも(笑)、取り組んでみると新しい発見や可能性を広げてくれる。学生には、あらゆることに関心を持つてもらいたいと思っています。

## PROFILE

准教授 増富 和浩

長崎県生まれ。九州大学大学院博士課程後期単位修得退学。九州大学大学院人文科学研究科助教を経て、現在、宮城学院女子大学准教授。論文: "The Syntax of -er Nominals: A Minimalist Approach" (English Linguistics Vol. 25, 2008) など。

MIYAGI GAKUIN  
WOMEN'S UNIVERSITY

これを読んだらぜひ読んでほしい本



英文学科  
増富 和浩 准教授

## 英語学

● 磯部先生おすすめの本 ●



「ニッポンには対話がない」

— 学びとコミュニケーションの再生 —  
北川達夫・平田オリザ 著  
三省堂 1,575円

個性的な2人の対談。互いの意見を衝突させ、「対話」することによって学びとコミュニケーションの再生をデザインした書。教師になる人もそうでない人も「教育の不思議」を再認識できるかも?

● 増富先生おすすめの本 ●



「古代への情熱」

— シュリーマン自伝 —  
ハインリヒ・シュリーマン 著  
関 楠生 訳  
新潮文庫 380円

トロイア遺跡の発掘者であるシュリーマンの自伝。単なる考古学の入門書ではなく、子どもの頃の夢を持ち続けることの大切さ、研究することの意味などについて目からうろこの発見がある本です。



# 社会で活躍する卒業生たち

OG INTERVIEW

宮城学院時代の

人の縁に支えられて

今の仕事があると思います

仙台文学館  
学芸室

阿部 朋子さん



—どんな仕事をしていますか？

学芸員として文学館で開催する企画展の企画、展示、運営に携わっています。この春の「太宰治」の特別展では企画をから立ち上げました。テーマを決め、全国から資料を集め、展示の仕方を考えて…。大変ですが、企画によっては好きな作家の方と一緒に仕事をできるなど、文学が好きな人にはたまらない仕事です。

—宮城学院を選んだ理由は？

子どもの頃から文学が好きでした。将来は教職など学問に関する仕事をしたいと思っていました。宮城学院は教職に就く方が多く、社会でいきいきと働いている女性に宮城学院OGが多いと感じたのも理由です。

—宮城学院の思い出は？

勉強も遊びも何をするにもみんな熱心です。分からないことには先生や友人が学料を超えて手助けしてくれました。すごく勉強しやすい環境でした。

—後輩たちへのアドバイスをお願いします。

学芸員の仕事をすることになって、宮城学院は先生方やOGなど文学関係者の地盤が厚いと感じました。今の私は恩師をはじめ、宮城学院の人の縁に支えられて、仕事ができているんだなと感じています。

思えば学生時代は毎日偉大な先生方に教えて頂いていました。自分の反省を含めていいですが、基本の講義を大事にしてください。また、勉強や就職について、もっと先生方や大学を頼ってみてはいかがでしょうか。求めただけ応えてくれると思います。

とちこ  
阿部 朋子さん 2002年 大学院人文科学研究科 日本語・日本文学専攻修了  
大学院在籍中から仙台文学館で学芸員として勤務。プライベートではつい最近、結婚したばかり。  
「仕事と家庭の両立をし、将来的には子育ても楽しんでみたいです。」



# Students Voice

～在学生の活躍を紹介！～

## 保育者をめざして

「子どもの心を理解できる保育者になりたい。」このような思いを持って私は発達臨床学科に入学しました。発達臨床学科では専門的な講義のほか、附属幼稚園での観察実習や現場実習など、実際に子どもと触れ合うことができ、日々の大学生活が充実したものとなっています。

授業を通して、子どもの興味・関心が年齢などによって異なることを学びました。そのため、今後は教材研究を積極的に行うことにも努めています。手遊びを覚えたり、年齢に合った絵本を探したり、またパネルシアターや布絵本などを実際に作り、子どもの目線に立った



取り組みも積極的に行いました。また、自分で作った教材を実際に使って保育するといった経験を通して、喜んでくれている子ども達の姿をみて、教材研究の大切さを実感しました。

2年次の春休みには、保育所でボランティアを行いました。子どもにかかわりながら理解を深めていくためには実際に現場を見る事が一番だと思ったからです。ボランティアでは保育の様子を観察し、子ども達と一緒に遊ぶことで、子どもの興味・関心の対象が何であるかを知ることができました。保育の現場に参加できたことは、私の志す「子どもの心を理解できる保育者」として学びの良い経験となりました。これからもボランティアなどの実体験を通して、子どもについての学びを深め、さらに家庭環境や子どもをとりまく社会環境にも視野を広げ、さまざまな性格や環境の子ども達の心が理解でき、対応ができる保育者をめざしたいと思えます。



菅原 美里さん  
発達臨床学科3年(心理コース)

将来の夢を実現させるため、日々保育者としての知識やスキルを身に付けるため学業に励んでいます。体を動かすことも好きで、サークルではスカッシュサークルに入っています。大学生活では学習やサークル活動に積極的に取り組み、たくさんの経験をしたいと思えます。

## 挑戦は吸収の母

入学してからあここの間に2年半が過ぎました。大学ではさまざまなことに挑戦したいと考えていましたが、その希望通りにゼミやサークルなどで多くのことを学び、充実した日々を過ごしています。

サークルでは競技ダンス部に所属し、必死に練習をしてきました。それが結果につながることもあればつながらないこともあり、悩むことやつらいこともありましたが、それ以上に私を成長させてくれました。部活というものは一人では成り立たず、常に他者とかかわりながら活動しなければなりません。その中で、自分を理解してもらいたいと思うなら、



自ら変わらなければいけないというところに気づきました。このことは、バイト先や人とかかわるうえで私自身を大きく変えました。そして、なにより大切な仲間と互いに良いライバルとして活動していくことは、本当に自分自身を成長させてくれます。

ゼミは産業・経営心理学ゼミ(大橋ゼミ)に所属しています。興味のあることを学ぶのはこんなに楽しいんだと感じるほど積極的に学んでいます。「気づく」「こたや」「考える」ということが、学ばなくても普段の生活でも大切であり必要であると強く感じました。大橋ゼミでは学外で活動する機会が多くありますが、この夏に松島で行われた日本経営工学会の夏季研修会でも全国の大学の学生たちと共に学び、とても刺激を受けました。

大学生活も残り少ししかありませんが、悔いが残らないようにいつでも多くのことを吸収したいと考えています。



若山 優花さん  
心理行動科学科3年

大橋ゼミでは、夏に日本経営工学会の研修会に参加しています。全国の大学から学生が集まり色々な企業の見学を行い、職場で起きるヒューマンエラーに対しての改善策を考え、企業へ発表を行います。将来に生かせる貴重な経験ができました。この学科で多くのことを考え、学ぶことができ、本当に楽しいです!



## Campus topics

### ■ 英文学科に「英語しゃべくりラウンジ(ESL)」オープン

英文学科では、在学生の英語コミュニケーション能力を向上させる方策の一つとして、通常の授業とは別に、英会話ラウンジ(English Speaking Lounge, ESL)を開設しました。ESLは予約制で、担当者はRobert Green先生です。金曜日の午後、英文学科の学生は、一対一で英語母語話者の先生と自由に英語で会話をすることができます。授業で学んだ表現の復習、将来の留学の準備、授業では質問できなかったことの確認等、利用法は学生次第です。現在、利用状況を見て、開室日を増やすことを検討しています。詳しくは、英文学科のサイトをご覧ください。



### ■ MG版キャリアサポート

就職などの進路選択を支援するキャリアサポートでは、従来の就職支援に加えて、昨年度から新たな取り組みを行っています。

ひとつはメールによる相談です。「わざわざ学生サポートセンターの窓口に行くのは…」とか、「ちょっと聞いてみたいことがある」と思う学生の気持ちをメールで受け、担当者が返信します。3・4年生だけでなく、1・2年生からのメールもあり、就職などについての疑問を気軽に相談できる場になっています。

ふたつめは「OG集いカフェ」です。お茶を飲みながら、なごやかな雰囲気の中でOGとの情報交換ができます。社会人の先輩から、とっておきの話やアドバイスがもらえるのは、宮城学院の女子教育の伝統です。

ほかに講演会や社会とかかわる自主活動支援など、詳しくは今年度作成のキャリア教育リーフレット(全学生に配布)をご覧ください。



## Club

### サークル紹介



#### バスケットボール部

私たちバスケットボール部は、毎週月、水、金の放課後に活動しています。各種大会にも積極的に参加し、日頃の練習成果を発揮できる機会がたくさんあります。また部員同士も仲が良く楽しく活動しています。皆さんも私たちと一緒にバスケットを楽しませんか?

#### 文芸部

私たち文芸部は部誌「ハリケーン」を発行するほか、大学祭ではテーマを決めて特別号「つむじ風」を発行しています。基本的には個々で創作活動にのぞいていますが、時には批評しあいながら文章能力向上にも努めています。部誌は今年6月の発行でめでたく50号となりました。伝統を守りながらも、日々新しいことを模索し、部員一同仲良くがんばっています。



### メイキング オブ 〈パーティール〉

— Making of partir —



今号の取材の合間に「さなぎプロジェクト」の学生が運営している「とれたてキッチン[kirsche]」でランチをいただきました。地産地消を基に、食材は地域のものを中心に使用されていました。大根の菜飯や蓮根のつくねなど創意工夫された料理が並び、野菜中心のヘルシーかつ低カロリーな料理にスタッフ一同大満足でした。期間限定メニューでしたので、機会があればまたご馳走になりたいものです。

## Recipe



### 宮学生の特製オリジナル 私たちの健康レシピ!

グラタンといえばカロリーの高さが気になりますが、今回ご紹介するレシピは豆乳を使用しているため脂質の割合が低く、野菜たっぷりヘルシーなものです。かぼちゃ特有の甘みによって豆乳独特の臭みが消されるので、豆乳が苦手な方でもお勧めの1品ですよ。これからの時期においしくなってくるきこ類などを加えるのもいいですね♪

今回のレシピは…



食品栄養学科4年 大町あずさん

### 豆乳ライスグラタン



#### 材料 / (2人分)

ごはん……………茶碗2杯  
玉ねぎ……………1/2個  
にんにく……………1/2片  
かぼちゃ……………1/4個  
にんじん……………1/2本  
バター……………大さじ1  
塩……………小さじ1/2  
こしょう……………少々  
豆乳……………300cc  
ピザ用チーズ……………40g

#### 作り方

- ①玉ねぎ・にんにくはみじん切り、かぼちゃ・にんじんは幅2cmの薄切りにする。
- ②フライパンにバターを熱し、玉ねぎとにんにくを色づくまで炒める。さらにかぼちゃ・にんじんを加えて炒め、塩・こしょうで調味する。
- ③②にごはんを加えて炒めた後、豆乳を加えて汁気がなくなるまで煮詰め、チーズの半量を混ぜ合わせる。
- ④耐熱容器に③を入れ、残りのチーズを全体にまぶし、オーブントースターで7~8分焼く。

グラタンを焼くのはオーブントースターでOKです。ただし、すぐに焦げ目がつくので、途中アルミホイルをかぶせてから焼き上げるとよいです。

ここがポイント!

### 学友会 ニュースMGが行く!

#### 新入生歓迎会

5月14日に毎年恒例の新入生歓迎会が開催され、スポーツ大会や餅つき大会、クレープ作りや先生方お手製のおもてなし料理など盛りだくさんな催し物で新MG生を迎え入れました。

スポーツ大会には学年・学科に関係なく多くの人に参加し、その試合はいずれも白熱したものとなりました。餅つき大会で使用したトチの実、学長先生をはじめ、先生方や学生たちが校内で拾い集めたものです。先生方の料理もとてもおいしく、スポーツにも食べ物にも大満足な歓迎会だったと思います。来年の新入生歓迎会が今から楽しみです。

学友会ニュースMG編集部 佐藤あかねさん





## 長椅子のこと

私の研究室に木製の長椅子が一脚ある。もともと東一番丁(旧校舎)の講堂(礼拝堂)や音楽棟で使われていたもので、桜ヶ丘に移転して以来三〇余年、私の研究室に置かれていた。長さが七尺(二メートル一〇センチ余り)幅が一尺(三〇センチ余り)。学生四、五人がゆつくり座れるから、少人数のゼミなどによく使われていた。ひとりなら横になつてうたた寝することもできる。

ここにはスチールの椅子にない温もりとやすらぎがある。思うに私はレトロ(懐古的)なその味わいに惹かれていたのである。もつというとき民芸家具に感じる「用の美」をうけとめていたのかもしれない。この椅子はともかく重い。脇板の厚みは四センチほどもあり、無骨なほどに頑丈な作りである。そして脇板はやはりらかなカーブを描き、その先にわ



び手のような飾りがある。私はこれを見るたびに重厚で繊細な「頑丈美」ということを思い出す。

この椅子がいつ作られたのかはわからない。しかし、長い年月にわたって現役であり続け、その間、数えきれぬほど多くの青春をうけとめてきたであろう。

実はこの椅子は座板の一部が破損している。少々重みのある方が座ると、お尻の肉を挟む危険がある。それで私は細長い座布団を敷いて使っている。その破損は私の研究室に来る以前であつて、だから桜ヶ丘に移転する際、移送する物品から除かれていた。しかし、廃棄するにはいかにも惜しい。まだ十分使える。それでこの椅子を運び出し、私の研究室に置くことにしたのだ。

私が退職する三月に、この椅子はどこにいくのだろう。廃棄することになるかもしれない。この椅子を撫でながら私は「お前もそろそろ退任する頃合いかもしれないぞ」と声をかけている。

文 日本文学科 犬飼公之

### 編集後記

宮城学院が桜ヶ丘に移転して今年で30年。赤レンガのキャンパスは春夏秋冬、四季折々に映えて今も気品あるたたずまいを保っていますが、さすがに30年も経つと自然環境も社会環境もそれなりに変化して、当時の建築基準や設計思想では間に合わないところが出てきました。ことに今年は記録的な猛暑。宮城学院ではここ数年、耐震化工事に引き続き全館冷房化計画を推進中でしたので、学生たちははるうじてクーラーのきいた教室で過ごすことができたかと思えます。

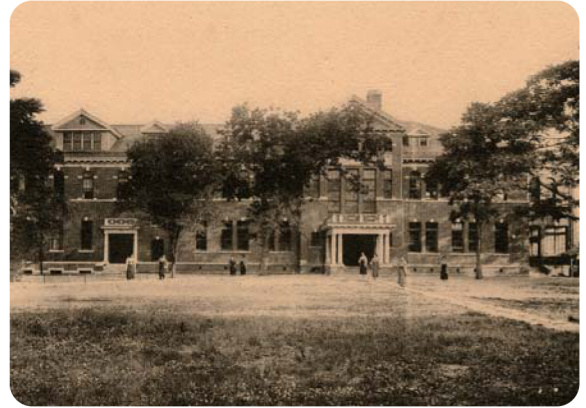
さて、バルティール第10号をお届けします。巻頭特集では学芸員資格の取得を目指す学生たちの取り組みをご紹介します。ただ与えられるだけでなく、自ら求め、力をあわせ、試行錯誤しながら得た成果は、失敗であれ成功であれ、それぞれが何物にも替え難い「学び」でしょう。私たちは犬飼研究室に置かれたあの古い長椅子のように、これからも学生たちを暖かく見守っていきたく思います。(M・F)



## MG archives

この建物は1926(大正15)年、本学が創立40周年を迎えた年に完成した。当時建設資金の調達に従事した北米合衆国リフォームド教会婦人ミッション会長のミス・アンナワルト女史は、「私共は常に宮城女学校が、将来において日本国のためなお一層貴い力とならんこと、および神様の豊かな祝福が常に本校の上に在らん事を祈ります」と祝辞を述べている。設計はW.M.ヴォーリス。地下体育館、社交室を備える壮麗な校舎であった。

(写真・文 宮城学院資料室)



「宮城女学校専攻科校舎」

巻頭座談会

## 学芸員課程シンポジウム

シンポジウム実行委員会×宮城学院女子大学学長 吉崎泰博

05 シリーズ 思索の森の案内人たち

07 OG INTERVIEW 社会で活躍する卒業生たち

08 在学生の活躍を紹介! Students' Voice

## MG Cafe

09 宮学生の特製オリジナル 私たちの健康レシピ

学友会 ニュースMGが行く!

10 Campus topics

Club サークル紹介

Making of partir メイキング オブ (パルティール)

MG フォトエッセイ